

Letters

Arpak

レターズアルパック

VOL.227

ISSN 2432-5295

C O N T E N T S

◆【風 KAZE】…01～04

・風に乗って、伊勢・志摩の五月・風に吹かれて・新しい風・4年ぶりに、再び？新風をもたらせるか！・ベトナム地方都市開発の「追い風」・夜明けにけぶる風待ちて。・風物詩紀行

◆今、こんな仕事をしています…05～07

◆新人紹介…08

◆事務所だより…09

◆近況&イベントのお知らせ…09～10

◆まちかど…裏表紙

・地域の「居場所」の社会実験～パブリックハウス「モモ」の話～

風
KAZE

風 KAZE

風は空気の動きのこと。気圧に差があると空気が動き、それが風になります。気圧のバランスが崩れると風が吹くのです。

私たちをとりまく空間は空気で満たされています。均質にみえる空間の中で気圧の偏在が起き、つまり均質ではなくなったときに動きが生まれるというわけ。

風は力。動きが生まれると、それが力になって思わぬところに作用することがあります。風が吹けば桶屋が儲かるのです。

社会の中にいかに「偏在」を生み出し、社会を変える「風」を吹かせるか。それは私たちが常に意識していることでもあります。

レタースアルパック編集委員会

風に乗って、伊勢・志摩の五月

三輪泰司：名誉会長

皆さんは、「修学旅行」は、何処へいらつしやったでしょう
か？伊勢？

アルパックで最初の社員旅行は伊勢参り。近鉄特急ができて、日帰りを試してみました。創立した1967年の秋です。創業メンバーと娘・絵里子の7人。翌、1968年の4月28日、運転免許を取りました。その1週間後、5月4日。伊勢志摩ヘドライブしました。日産の中古。赤いダットサン。

「風」は、カゼではなく、フウと読むのです。ナンバープレート「京都5・ふ〇〇〇」を見て、小学校1年生



さで誰でしょう

の娘が「フーちゃん」と名付けました。免許1週間だつて？ご心配無用。クルマの数は、今の十分の一どころか、百分の一くらい。そのかわり、舗装道路でなく地道です。ハイウェイなんて全然ない。日帰りでした。

その3年後、1971年8月29日〜31日、最初の全社研修会、2泊3日。テーマは「事務所の歩みと経理システム」社員は17名になつていました。行き先は、伊勢志摩。浜島の合歓の郷と五ヶ所湾。2日目に台風に会いました。

何故、伊勢志摩なのでしょう。子どもの頃、と言っても中学校1年生の頃、御所の東にあった隠居で、一緒に暮らしていた祖父に伊勢参りの話を聞いていました。自転車で行ったのだそうです。祖父は当時、独身でした。明治26年に、24歳で、19歳の祖母と結婚していますので、1890年前後、明治23〜24年頃でしょうか。

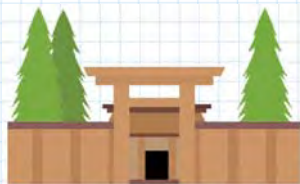
その頃、自転車は舶来のハイカラで、今でいえば、ランボルギーニみたい。それに、写真機

を持つていつているのです。ガラス乾板ですよ。重いです。

伊勢参り、伊勢講、断片的に聞いていました。意識の底に、貼りついていたのでしょう。西山英雄さん、森野嘉光さんら、京都の芸術家が、別荘村を創ろうと、お声が掛かった時、すぐ手を挙げました。南勢町の五ヶ所湾でした。

祖父・芳太郎は、本田味噌の三代目です。次男ですので、14歳で、断絶し掛けていた公卿侍の養子になりました。その家の姓が「三輪」です。

三代目はなんでも、新しいことをするのだというのです。動力源を石炭ボイラーに、運搬はベルトコンベヤーや天井走行クレーンに。「唐様で、売り家と書く、三代目」、というやろう。早々に辞めるか、思いきった大改革をするのだというのです。私は、祖父から三代目です。何か、新しいことを拓いたのでしょうか。伊勢志摩の海と森がみえています。



風に吹かれて

原田稔：建築プランニング・デザイングループ

建築の設計に携る私がこんなことを言ってしまうと身も蓋もないと言われそうですが、私は自分自身が住む家にほとんどこだわりがありません（誤解の無いように言っておきますが、自分以外の人にとっての建築は別です）。そもそも、私はどこでも眠ることができ、歩きながらでも食べることができる人なので、一定の場所に留まることをあまり欲していないのかもしれない。

そんな私は数年前から夏か秋にテントを担いで北アルプスの穂高連峰に登っています（昨年はコロナの影響で断念しました）。

上高地から徳沢、横尾を経由して涸沢カールへ向かい、そこをベースに奥穂、北穂に登るルートで、上高地から横尾まではほぼ平坦な道を梓川に沿って林の中を進みます。ですので、横尾までは観光客やハイカーの姿も多く見られます。横尾から先は登山道に入り、日ごろの運動不足と重いザックがたたり、私には結構きつい山行です。涸沢カールでテント泊、運が良ければ満天の星空の下で眠り、朝には穂高連山を赤く染め上げるモルゲンロートをすぐ目の前で

見ることができます。そして、

いよいよ目標のピークを目指します。

山に登る醍醐味は、なんと言っても山頂に辿り着いた時の達成感とそこに現れる景色の素晴らしさです。山が高ければ高いほどその達成感は大きく、今まで見た素晴らしい景色を更にも上書きしてくれます。ただ、山の天気は気まぐれで、3回に2回ぐらゐは山頂はガスに包まれ、周りの景色は真っ白となり、ひどい時にはその場が山頂であることすらわからないくらいで、「そこにははただ風が吹いているだけ」（少し古いかな）といった状況になります。

真っ白なガスに包まれた山頂で一人「風に吹かれて」（ますます古いですね）いると、ごく自分の無と実存の両面を肌で感じるができます。今まで数多くの音楽や小説の作者が「風」という言葉に託そうとした思いが少しわかるような気がします。



新しい風

松川育世：都市・地域プランニンググループ

私は2月の結婚を機に、3ヶ月の間に2度の引っ越しをしました。結婚・引っ越しという大きな環境の変化は「新しい風」のきっかけになるのではないかと感じています。

元々私が住んでいたのは、大阪のあびこでした。私の出身地である愛知県を出て、関西ではじめて住んだ場所です。あびこには活気のある「あびこ商店街」があり、おいしい焼き屋さんやかわいいパン屋さんを見つれたり、毎日おいしく楽しく散歩ライフを送りました。愛知県の地元にはない、にぎやかな下町の雰囲気を感じることができ、とても新鮮でした。

次に住んだのは奈良です。観光地である「ならまち」が家の近くにあり、コロナ禍でしたがあびことは違った観光地のにぎわいがありました。また、歴史の教科書で見る、興福寺や東大寺などが家から歩いて行ける距離



離にあり、近くに古都を感じることができました。いつでも散歩感覚で観光ができるというのはとても贅沢な経験でした。

その次は神戸に引っ越ししました。まだ、引っ越して来たばかりという事とコロナ禍という事もあり、外出はあまり出来ていません。貿易で栄えた神戸のまちの文化や雰囲気を感じるのが楽しみです。

これからの色々な環境の変化が起きていくと思いますが、それも楽しみながら、「新しい風」を感じていきたいです。



4年ぶりに、再び？新風をもたらせるか！

駒和磨：サステナビリティマネジメントグループ

私は、アルパックに入社して早5年目となりますが、この2年間は環境省地球環境局地球温暖化対策事業室に出向してました。大きな問題？も起きず、2年と1ヶ月の任期を無事終え、5月にアルパックに帰任致しました。

環境省では、ZEH（ネット・ゼロエネルギーハウス）、鉄軌道の省CO₂化事業、グリーンズローモビリティの導入事業などの住宅・公共交通に関する補助事業、再エネ大量導入に向けた需要側の運転制御設備導入の補助事業等を担当してきました。自身の専門分野とは異なり、専門用語や霞ヶ関文化に悪戦苦闘しました。

2020年10月26日、第203回臨時国会の所信表明演説において、菅義偉内閣総理大臣が社会のグリーン化を目指す指針の一つとして「カーボンニュートラル宣言※」を行いました。

これにより、企業の「脱炭素化」の流れが加速、地方公共団体も2050年二酸化炭素実質排出量ゼロに取り組むことを



地域交通を担う新たなモビリティ
グリーンズローモビリティ

表明する自治体が300を超える（2021年3月時点）など、官民ともに、環境への意識が変わりました。ただ同時に、自治体や民間企業が、脱炭素に向けてどのようなアクションを取ったらよいか見えていないというのが、印象に残りました。

私が、4年前アルパックに入社した際、新風をもたらしただろうかは微妙ですが、現在、脱炭素の取組が盛り上がっている中国で得た知見、担当していた事業の知識をアルパックの業務に活かしながら、地域の脱炭素に向けた取組に貢献できるように尽力していきたいと思っています。

※「カーボンニュートラル」とは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いてゼロを達成することを意味しています。

ベトナム地方都市開発の「追い風」

ホアン ゴック チャン：地域産業イノベーショングループ

私の実家は丘の上にあります。毎年、夏休みとともに雨季もやってきて、風がビュービューと強く吹いてきます。たまにですが、台風でも来ると家の周りの植物やコーヒーマスの木が折れそうなくらい風に靡いて、家の屋根も飛んでしまいうです。実家の半径1キロメートルに家が30軒があり、昔から主にコーヒーマス栽培やご近所の縫製工場でお仕事をしていました。

最近、コロナ禍で渡航できないため、家族に連絡するのは無料通話アプリを使います。母親と話すたびに、まちの様子などよく教えてくれます。「まち中に車が増えている」や「ご近所の売地がまた高く売れている」など。

県内や広域のインフラ整備計画が次から次へと発表され、その追い風で市内の地価も高騰している、農家さんはコーヒーマスを分譲し、住宅地サイズに売れるようになった、昔はコーヒーマスの豊作で生活が豊かになりつつあったが、今はそのコーヒーマスを売って儲けている、とのこと。



総長67km、予算約775億円で計画されているタンフ高速道路

調べてみると、市とホーチミン市の東の玄関口に隣接するドンナイ省の一部を結ぶ「タンフ」高速道路の建設計画がありました。本計画はPPP（Public Private Partnerships）手法を導入し、今年5月現在に予算の半分を確保できたと発表されました。ポイントは、これらの他にも、不動産や商業、ロジスティクス開発の仕組みづくりを通じてその他の資本調達も図りたいとのこと。高速道路の実現にはまだ遠いような気がしますが、私の生まれ育ったまちの様子が確実に変わっています。

夜明けにけぶる風待ち。

廣部出：公共マネジメントグループ



感染防止対策の関係ですつとお休みされていて残念でならないのですが、家の近所に京都発祥の某メジャーチェーンの焼き鳥屋さんがありまして。それはもう、世俗の垢を落として帰宅するヤムニヤマレヌ必要から、ちよくちよく行っていたわけです。

入口の引き戸に手をかけるはるか前から、そろそろ鶏の油煙が薫りますわ。ピンと広がった姿でパリパリに焼けた皮とか、弾力の歯ざわりが小気味いいハツとか、もう一発ハツとか、和辛子がよく合うつくねとか、いやここは奥歯の白で楽しむズリにあって、舌奥でねつとりとろけるレバーからの、再びのつくねとか。だいたいそんな感じで、いつもほとんどを塩で頂きます。安くて旨い庶民の味です。

いったい誰が、塩だれ+マヨで頂くキャベツを避けて通れましょうか（決して避けることなどできません）。

チェーン店とはいえ、店舗ごとでかなり独自性の強い営業をされています。我が家最寄りのお店は住宅地に立地しているもので、ちびっこ複数引き連れてのワイガヤ3世代家族や小学校時分からの同級生仲間のおっちゃん&おばちゃんズなんかもよく来られます。

そうして地縁コミュニティがゆるくつながる場ともなっているお店ですから食事メインの人も多い。ですので、ここには焼きおにぎりのひとつの完成形があるのです。醤油のしみたところが炭火にじっくり炙られてアラレくらいに仕上がってます、前出の油煙の薫り付きで。オーダーしたことはないものの、皮ごと真つ黒に焼いた焼きバナナとか、デビルのピザとかだってあります。焼き鳥屋さんだもの。デビルっていうのは、"小悪魔風" っていうくらいの意味かと思えます。ちょいとからいんでしようね。フウ。

風物詩紀行

木下博貴：地域再生デザイングループ

【風物詩】①風景または季節をうたった詩。②季節の感じをよくあらわしている物事。（広辞苑より）。四季折々の景色とその土地の持つ文化が織りなす風景はとても魅力に感じられます。私がこの仕事を選んでいるのもそんな魅力を数多く味わい続けたいと感じているのかもしれない。

さて、初夏の候、私の自宅のある豊橋市では、夏の風物詩ともいえる『手筒花火』に向けた準備が着々と進められています。

手筒花火は、愛知県豊橋市が発祥の地と言われており、愛知県東部・東三河地域の伝統的な花火です。縄を巻いた、長さ1メートルほどの竹筒に火薬と鉄粉を詰めて作られており、無病息災、悪疫退散、五穀豊穡などを祈る奉納行事として豊橋市内の数多くの祭礼で揚げられています。また、この手筒花火は、揚げ手が一日限定の臨時花火師の資格を取り、自ら竹の切り出しから火薬の仕込み、詰め込みまですべて行うことが伝統になっています。揚げ手は、筒を脇の横に両手でしっかりと抱えるように持ち、巨大な火柱を噴出させ、最後に「ハネ」と呼ば

れる炎が大音響とともに足元に吹き出す勇壮な花火です。起源は、戦国時代にさかのぼり、この地域で盛んになったのは、徳川家康が三河衆に火薬の製造を任せたことが花火の発展につながったとも言われています。

この時期になると、市内各所に地域の方々が集まり、手筒をつくる風景を目にすることができそうです。手筒花火の放揚はもちろんです。各所で見られるこうした準備風景もまた、夏の訪れを感じつつ、地域のつながりが垣間見える風物詩となっています。昨年、コロナ禍で見るのができなかった風景でしたが、今年は、少しずつ、夏の訪れを伝えていきます。



巨大な火柱を噴出する手筒花火

玉津島神社の境内修景整備が完成しました

水谷省三：

都市・地域プランニンググループ



① 再建した「西大鳥居」

玉津島神社は和歌山市域の南部に位置し、2010年8月には隣接する鹽竈（しおがま）神社や背後の奠供（てんぐ）山とともに、国名勝「和歌の浦」として指定されました。

和歌の浦と雑賀崎の一角が歴史まちづくり計画の重点地区として指定（2018年3月認定）され、歴史的建造物の保全・活用に関する事業として、この玉津島神社境内修景整備が位置付けられました。アルパックはこの境内地修景整備の設計と重点監理についてお手伝いしました。

玉津島神社の境内地修景整備の主な修景内容は、現存鳥居前の宮前広場から左右に広がる2本の参道の修景整備と「西大鳥居」の再建をは



② 西大鳥居下の「青石」の乱張り舗装



③ 拝殿前の既存鳥居（袖柱の付いた木製鳥居）と既存の青石乱張り舗装



⑤ 歌枕展望広場の入り口付近、朱色の斎垣（いがき）は新調したものの



⑥ 歌枕展望広場の様子

じめとした宮前周辺の顔づくり、境内地奥の地形等を活かして和歌の浦方向を眺めることができ「歌枕展望広場」の整備です。



④ 拝殿の左手奥に続く「歌枕展望広場」へのアプローチ

また、神社境内地の外構舗装の特徴として、拝殿から既存鳥居（写真③）控え柱付きの木製鳥居）床面の舗装に紀州産の「青石」による乱張り舗装が施されおり、拝殿前の象徴的空間をつくり出しています。これらの「青石」を修景舗装に活用するな

ど、神社の特性を活かすような舗装設計としました。

歌枕展望広場は、拝殿の左手奥に新設した展望広場で、玉津島神社の中から和歌の浦方向を展望できる唯一の場所です。拝殿手前より奥の歌枕展望広場へ誘うように、青石を伝石のように配置しています。（写真④⑤）朱色の斎垣（いがき）は、老朽化したものを新調し、展望広場の浦の風景を眺めながら、休憩等が

また、玉津島神社の西側敷地では、和歌の浦の歴史的風致、日本遺産の価値やその成り立ち等を情報発信するため、「和歌の浦ガイド施設」の整備が予定されています。玉津島神社や和歌の浦周辺の魅力が多くの方々に伝わることを期待されます。



⑦ 宮前広場の句碑と句碑説明サイン

「(仮称)道の駅姫路」整備基本構想ができました！

浅田麻記子：

地域再生デザイングループ



姫路市は、世界遺産・国宝姫路城を中心として国内外から年間900万人以上の観光客を迎えています。

来訪者の多くが自動車で来訪していることもあり、近年地域活性化拠点としても注目されている道の駅の整備を検討することとなりました。

「(仮称)道の駅姫路」のコンセプトは、「播磨の実力(みりょく)」と「世代・地域を越えた交流」です。姫路城の帰りに立ち寄ってもらう場所、この道の駅が目的で訪れてもらえる場所・・・、市民・観光客の様々なシーンに寄り添える道の駅を

「姫路」に道の駅ができる！

目指して、今年度も引き続きお手伝いさせていただきます。

「(仮称)道の駅姫路」では、民間事業者のアイデアやノウハウも取り入れて、効率的かつ効果的な整備・管理運営を行いたいと考えており、姫路市の地元事業者やゆかりの事業者を中心に、様々な事業者の方々にヒアリングも行う予定です。

官民連携事業をお手伝いさせていただく際に、民間事業者の方々から思いもなかったアイデアもお伺いできるので、私個人として楽しみにしています。

本業務は当社の4つのグループが丸となって取り組んでおり、これまでの個人それぞれの経験やノウハウも共有できるよい機会であり、これこそアルパックの強みであると思っています。

今後とも続報をお届けしますので、姫路の新たな魅力発信拠点ができるまで皆様と一緒に見守っていただけると幸いです。

「(仮称)道の駅姫路」整備基本構想

<https://www.city.himeji.lg.jp/sangyo/0000015054.html>

※本業務は、建築プランニング・デザイングループの三浦健史、新開夏織、地域産業イノベーショングループの原田弘之、武藤健司、都市・地域プランニンググループの岡本壮平も担当しています。

1年ぶりに上山高原で山焼きが行われました

末次優花：

サステナビリティマネジメントグループ



仕上げの消火作業



みんなで防火帯に並んで延焼防止

当日の様子(動画)はこちら→



上山高原(兵庫県新温泉町)では20年前から自然再生、エコミュージアムの取り組みが行われています。

上山高原では、NPO法人上山高原エコミュージアム主催で毎年春にススキ草原の山焼きが行われています。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止されたため、1年ぶりの山焼きとなり、面積は8ヘクタール超と過去最大でした。

上山高原のススキ草原は、かつて山焼きや牛の放牧、採草など人々の営みの中で維持されてきた二次的な自然でしたが、近年の農業の機械化による牛の放牧の減少等により人の手が入らなくなり、ほとんど消失していました。絶滅が危惧されているイヌワシの生息環境の保全など豊かな自然を守るために、約20年前から

自然再生事業が行われています。山焼きと刈り取りを繰り返すことで良質な茅が育ちます。

2017年からは、刈り取ったススキを茅葺き用の茅として利用するプロジェクトも始まっており、単なる自然再生にとどまらず、資源の活用および経済的な効果も生み出す取り組みにもつながっています(レターズ209号、211号でも紹介)。

※自然再生事業監理として、サステイナビリティマネジメントグループの畑中直樹、中川貴美子、駒和磨も担当しています。



山焼きの火が大きくなり竜巻が起きた様子

名古屋市立大学開学 70 周年記念事業 学生会館リニューアル

間瀬高歩：
建築プランニング・デザイングループ

当社は、公立大学法人名古屋
市立大学（以下、名市大）の開
学70周年記念事業において、滝
子キャンパス学生会館の改修
基本計画、実施設計及び工事
監理を担当しました（レターズ
221号（2020年5月号）
の続編です）。

学生会館は1974年に竣
工したRC造3階建て延床
3200平方メートルの複合施
設です。施設は、1階食堂・カ
フェ、生協購買、2階談話室、
大ホール、3階会議室、サーク
ル室、音楽室等の機能構成であ
り、これら主要諸室を対象とし
た内装及び照明・空調設備の全
面的な改修を行いました。また、
施設内には名市大の歴史や伝統
に触れる場として、新たに大学
史資料館が設置されました。
南面の外装は、65周年記念事
業で整備されたレンガ広場と一
体的なキャンパス景観を創るた
め、レンガタイル張りによる
ファサード改修を行いました。
外壁改修のタイル張りは、外壁
材の落下を防止するピンネット
工法を採用し、大ホールは、ダ
ンス練習、吹奏楽、学内イベン
ト等の多様な利用形態のため、
床材表面が摩耗しても柄切れせ
ず、長期使用が可能な単層フロ



リニューアル後の学生会館南面外観：外壁改修のタイル張りは、外壁材の落
下を防止するピンネット工法を採用

アシートを採用しました。居な
がら改修工事のため、計画・設
計段階から安全で効率的な工区
分けを検討し、仮設計画、改修
工程計画を提案しました。
2020年10月には大ホール
で開学70周年記念式典が執り行
われ、学生・教職員の皆様に親
しまれる学生会館として再生さ
れています。
なお、当社では、40年後の名
市大の将来を見据えた施設長寿
命化や市内4キャンパスの再編
整備検討を行い、持続可能な大
学施設としていくための「施設
再編整備構想」の策定支援も担
当しています。

「公共的空間」を活用したまちの新たな魅力づくり

山崎将也：
都市・地域プランニンググループ



駅前の様子（奥の建物が閉店した百貨店）

百貨店が撤退した中心市街地に
おいて、公共的空間の活用によ
る活性化の可能性を検討しま
した。

神奈川県相模原市は県内3番
目の政令指定都市であり、小田
急線相模大野駅周辺地区が中心
的な拠点となっています。近隣
に町田や海老名といった商業集
積地がある中で、相模大野には
百貨店が立地していることが他
地区との違いであり、地域の誇
りともなっていました。しかし、
令和元年に百貨店が閉店し、駅
前の人通りが大きく減少するな
ど、地区への影響が顕在化する
ようになってきました。

このような中、地区に賑わい
を取り戻すため、「公共的空間」
に着目し、これらの積極的な利

活用と相互のネットワーク形成
による活性化の可能性に関する
検討を実施しました。対象とな
る空間として、駅周辺に分布す
る公園やペDESTリアンデッ
キ、道路空間、施設内通路など
日常的な動線や人だまり空間と
なり得る施設を抽出し、それぞ
れの利活用のあり方や課題など
を検討しました。

この中で、多くの施設が日常
的な利活用のポテンシャルを有
する一方、イベント時などのほ
か、地元において十分に利活用
できていないことが明らかにな
りました。

一方で、来訪者アンケートな
どにおいて公共的空間に対す
るニーズがあることが把握さ
れています。地元の人たちの
アイデアに基づいて公共的空
間の使い方を決め、実際に使っ
ていくプロセスを積み重ねて
いくことにより、地区に興味
や愛着を持つ人が増え、地区
が再び活性化していく可能性
があると感じました。

今後は、公共的空間が賑わい
の資源であることを地元の人た
ちが気づき、自ら使いこなして
いく意識を持つてもらうための
仕掛けづくりへと展開してい
ければと考えています。

新人紹介

実は約20年ぶりのアルパックです



齋藤友宣
サスティナビリティマネジメントグループ

4

月からお世話になっている齋藤友宣です。思い返せばアルパックとの出会いは、遙か昔、20年前。私の体重も20キロくらい軽かったのですが、そんな時に人からアルパックのごみ組成調査のアルバイトを紹介してもらったのが、私とアルパックの関係の始まりです。既に退職されていますが、当時は、小泉さんや福岡さんに色々と教えていただきました。

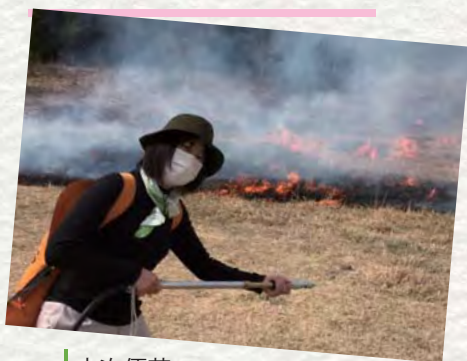
さて、新入社員とありますが、年齢40歳を超えています。これまでに事業型環境NPO、某市のごみ減量パートナーシップ団体の職員、同業他社に勤務してきました。最近では、ごみに関する調査や計画策定を行ってきました。そもそもごみが出ない、環境に影響が小さいライフスタイルが広まる取組ができればと思っています。かつては、家電製品の省エネラベルや、容器包装ごみをどう減らすかという観点で、スーパーでの販売実験やユースびんに関する調査や商品づくりなども行ってきました。これから色々やっていきたいです。最後に、猫好きです。

鳥

取県の自然の中で自由奔放に育つ中で、「自然とヒトの共存」について向き合いたいと考え、鳥取大学農学部に進学した後、総合建設コンサルタンで環境アセスメントなどに取り組みました。その後、地元鳥取県に戻り、まちづくりの仕事に携わったり、鳥取大学大学院博士課程に進学し、動物の交通事故（ロードキル）など「自然とヒトの関わり」について研究しました。3月に博士号（農学）を取得して大学を卒業し、アルパックに入社しました。

自然環境は「ヒト」がどう関わるかによって、良くも悪くも、その在り方が大きく変わります。「自然」そのものに着目した調査・研究も大事ですが、「環境」「経済」「社会」をどう組み立てるかが自然の形を決めるキーポイントだと思います。アルパックで「ヒト」サイドから仕組みづくりや計画立案に携わり、持続可能な社会づくりに貢献したいと思っています。

鳥取県からやってきました



末次優花
サスティナビリティマネジメントグループ

東

好奇心旺盛



高瀬 咲
地域再生デザイングループ

京都立川市の緑豊かな団地で育ち、15歳より栃木県小山市の高専で寮生活を送りながら建築を学びました。東京と栃木での居住経験から「地方と都市の在り方」、伝建地区でのまちづくり活動等への関わりから「都市計画・まちづくり」に興味があり、「地方をフィールドに都市計画を勉強したい」と福井大学に編入、5年間福井を中心に様々な地域で住民さんや行政の方々実践活動・研究をさせていただき、この春から京都で暮らしています。

好奇心のままに学びの旅を続ける中で、地域にはそれぞれに固有の歴史や個性があることを知り、もっと多くを知りたいと思いました。何かを知ることが何より好きなので、人もまちも知れば知るほどに魅力を感じます。魅力を生かし、まちと社会をよりよくしていく方法を皆様と考えていきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

和

歌山市で生まれ育ち、進学を機に京都市の伏見区に、4月から大阪に引っ越してきました。

和歌山ではみかん畑を切り開いた宅地に、京都では琵琶湖疏水沿いの木賃アパートに、今では某市街地住宅に住んでいます。住環境に関するエピソードトークには自信があります。

大学では都市計画を学ぶゼミに所属し、大学院では空間が残ること悲劇の記憶はどのように継承されるのかという問いのもと研究を行いました。

学生時代はゼミという居場所の存在が大きく、平日は昼から夜遅くまでコンペの作業や議論、週末は皆でまちあるきを口実に飲みに行くという生活でした。新型コロナウイルスの影響ですっかりこういった生活も縁遠くなってしまうことが、業務と並行して、まちを楽しむ活動（マチアソビ部と呼んでいます）を続けることを当面の目標したいと思います。

“筈谷”は和歌山に多い苗字です。



筈谷友紀子
都市・地域プランニンググループ

名古屋

「ナナちゃん人形」

名古屋事務所 節田さとみ

名古屋駅より徒歩3分ほどの場所に当事務所はあります。その途中に駅前の顔として愛される名鉄百貨店の「ナナちゃん人形」が設置されています。

身長6m 10cm 体重600kgの巨大マネキンが昔から待ち合わせ場所として有名ですが、近年はインパクト大の様々な衣装で話題になっています。百貨店の催しPRや企業広告のほか、学生のデザインを採用するなどアートな部分も。そのコスチュームから季節を感じ、流行りを知ることもできます。また、確定申告など公共性のある広報活動も積極的に行ってくれています。シンプルな名鉄ブルーのワンピースの時は「ひとやすみナナちゃん」という愛称で、見る側もひと息つく瞬間(笑)です。

彼女は1973年生まれ。先日48歳の誕生日を迎えバースデーウィークには「名古屋と福祉と地球環境」をテーマにした華やかな姿を見せてくれました。大半の衣装が一週間限定です。名古屋へお越しの際はぜひ「今週のナナちゃん」をチェックしてみてください。



滋賀

「通り土間を風が抜けていく」

滋賀営業所 小川直史

滋賀営業所は木造三軒長屋の一角を借りています。玄関をあけると通り土間になっており、中庭に繋がります。中庭に続く扉と玄関をあけると、すーっと風が抜けていきます。その風を感じると、何と無しに「掃除しよう」という気持ちになるのが不思議です。

今年は早くも梅雨入りしてしまい、五月晴れの爽やかな風はもう感じられなくなりつつあります。次に心地よい風を感じるのは、梅雨が明けて初夏になるのでしょうか。

新年度は、緊急事態宣言発令等の社会情勢を受け、加えて少しだけ忙しさにかまけたところがあり、大掃除ができませんでした。梅雨明けに扉を開け放し、通り抜ける風を感じて、大掃除に取り組もうと思います。

昼も干したいですね。掃除後に近くの店で一杯、はまだできないかもしれませんが、初夏の掃除終わりの日暮れには、爽やかなビールが似合いますね。



事務所だより

適塾路地奥サロン報告

適塾路地奥サロン実行委員会

32回 「まちの『ファン』を創る～まちづくりプロデュース～」

2021年
3月12日

講師 JISSEN.CO 古田大泉氏

第32回は古田大泉氏をお招きし、基本的かつ実践的な「まちの再生」と「まちづくりプロデュース」についてお話いただきました。

古田氏は、民間ベースの商業地や観光地の再生をテーマに「まちのファンづくり」を基本戦略として、長い年月をかけて変えていけるよう、仮説や方向性の提案から始め、事業がしやすい環境づくりに取り組まれ、その基本戦略に①まちのファンを創る②新しいマーケット(お客)を創る③新しい魅力コンテンツを創る④魅力空間を創る⑤民間で「まち会社」を創って挑むという5つの原則を組み合わせて、まちを再生させる手法をとっています。

ここでいうファンとは、リピーターやお得意様とは違った概念で長い年月付き合い情報を広めてくれる存在です。まずは、ファンの発掘を数年続け、そのファンから見たまちの魅力を探り直し、魅力ワードを設定し、それを磨くための事業を行っていきます。人口減少や内需の縮小という背景の中、ファンが自発的に発信してくれることでよりファンを増やし、事業の継続につながるということでした。「まちの再生」とは緻密な戦略とキーパーソン(ファン)の発掘が重要だと感じました。(豊福宏光)

33回 がもよんモデルの秘密～空き家再生でみんなが稼げる地元をつくる～

2021年
4月16日

講師 (一社) がもよんにぎわいプロジェクト
代表理事 和田欣也氏

第33回は和田欣也氏をお招きし、蒲生四丁目駅周辺(がもよん)における空き家再生を通じたエリアマネジメントの手法についてお話いただきました。

がもよんでは、この約10年の間に30店舗以上の古民家が再生され、飲食店を中心にアパレルやゲストハウスも出店しています。和田さんはこれらの店舗の誘致や古民家のリノベーション、そして飲食店(ひいては地域)の困りごと相談などを一手に引き受けています。

和田さんによると、店舗の誘致ポイントは、空きテナントの情報発信に力を入れるのではなく、地域の飲食店等の店主が「今がもよんに欲しい業種」を話し合っており、その業種の事業者を口説きに行くこと、とのこと。そのおかげで店主同士が相談・連携できる環境がつけられているとともに、お客さんががもよんの中で「はしご」しやすくなっているそうです。

また、家主が不利にならない改修費の設定、工事負担額の回収システムを構築されており、タイトル通り「みんなが稼げる」を体現されていると感じました。(小川直史)

近況 & イベントのお知らせ

書籍
紹介

『生きた景観マネジメント』

日本建築学会編 鹿島出版会

中塚一
代表取締役社長

「環境の変化を受けながらも、いまま生き生きとある都市やまち、場所を物語る景観—生きた景観。」

景観まちづくりに関しては、古くは戦前の古社寺保存法などの文化財保存の取組みから、戦後の美観地区・風致地区などの指定に始まり、1960年代の古都保存法、景観条例、伝統的建造物保存地区の制定などの歴史的まちなみの保存、1980年代の横浜市などの先進的な都市デザインの取組み、真鶴町まちづくり条例などの新しい景観の創造、2000年代の景観法の制定、文化的景観など、エポックとなる制度や活動・事業がこれまで展開されてきましたが、どちらかというとも景観資源の利活用に重点が置かれてました。

本書は、21世紀の景観マネジメントをとりまく潮流を「①景観資源の広がり、②都市再生や中心市街地のにぎわいづくりに向けた取組みの広がり、③つくる時代からつかう時代へのシフト、④震災を乗り越えた復興のデザイン、⑤継続的にまちづくりや景観づくりに関わる担い手の多様化、⑥人中心の都市を目指した公共空間の利活用・再編、⑦人口減少社会における空洞化やつくらない景観への対処、⑧社会実験など活動へと展開する景観づくりへのプロセス」と捉え、「人々のアクティビティと空間によって生み出される都市風景のあるべき姿やマネジメントのあり方、刻一刻と変化

するようなシーンマネジメントも景観づくりの取り扱うべきテーマ」として、様々な地区の実践を、資源編、主体編、変化編、地域経営編に分類して紹介し、今後の「生きた景観マネジメント」に向けて提言しています。

私たちが様々な方々と実践している現場においても、「景観」や「環境」などを代表に、人の暮らしに関する殆どの領域で、学習、計画、実践、評価等していく際には、資源、主体、地域経営など総合的な視点でとらえていくことが必須となっています。

例えばアメリカ地方都市のダウントウン再生を目的に開発・運営されている「メインストリート・プログラム」においても、①まちのデザイン、②地域プロモーション、③地域文化・経済の再生、④組織運営の4つの視点を同時並行的に徹底して実施していくことが提唱されています。

今後「景観マネジメント」をテーマに、研究、計画、実践していく様々な人々にとって、新たな展開を考える手がかりになる書籍です。



『軌道 福知山線脱線事故 JR西日本を変えた闘い』

この記事は [web からロングバージョンをご覧ください。](#)

松本創著 新潮文庫

馬場正哲
顧問・主席研究監

アルパックの先輩の闘いから学ぶ

2005年4月25日、尼崎市内で起きたJR福知山線脱線事故から16年がたちました。この春、3年前に東洋経済新報社から発行された同書が、文庫化されて出版されました。

この事故の被害者の中にアルパックOBの浅野弥三さんがおられました。奥様と実の妹様を亡くし、娘さんも重傷を負われました。口では全責任がJR西日本にあるといい、その実、被害者に与えた損失や苦しみや窮状を理解しようとしないう。自社の論理や組織防衛を優先する巨大企業、このことの「不条理」に立ち向かい、「なぜこの事故はおこったのか」を追求し、JR西日本を変えていく闘いを、元神戸新聞記者の松本創氏が、取材者として客観的に事故の全体像を俯瞰して描き出すというよりも、いわば浅野弥三というフィルターを通して、事故に関するさまざまな動きと向き合ってきた

た渾身のルポタージュです。

3年前の出版報告会に参加しました。出版報告と浅野さんの長年にわたる労をねぎらう会でもありましたが、ご本人や関係者とともにJR側の元支社長や安全担当者も参集していました。遺族と加害企業という関係ながら、巨大組織を変え、鉄道の安全を確立する闘いの「軌道」でのお互いの達成感という絆が読み取れました。閉会にあたって、浅野さんは、一つの区切りとして、奥様へ、約束を果たせたことを報告したいとの言葉で締められました。私たちはこの「軌道」の中の先輩から都市計画の専門家としての矜持を学ばなければならないと思っています。





庭と縁側のある大きな古民家

依藤光代：

都市・地域デザイングループ



地域の「居場所」の社会実験 「パブリックハウス」「モモ」の話

山梨県の南アルプス市に、パブリックハウス「モモ」という居場所がこの春に誕生しました。

庭付きの大きな古民家で、和室が6部屋ほどあり、縁側は開け放たれていい風が土間を吹き抜けていきます。Kさん（ご夫婦）と社会福祉士の女性など数名が中心になり運営されています。

いろんな人が集う場所で、奥ではお母さんがマッサージを受け、手前では小学生がかき氷を食べ、縁側で

はおばちゃんたちが談笑、庭では小さい子どもが水鉄砲を持って走り回る。襖を通して気配は伝わる、でもお互い気にならない、そんな心地よさ。広い台所からは、注文の入ったお弁当を作る、いい匂い。

モモに行くと、いらつしやいませではなく「おかえり」と声がかかります。手遊びなどの盛沢山のプログラムなんてものはなく、サービスの提供者と「利用者様」の関係でもない。そこに居たいだけ、居たいように居ることができ、大きな家族のような関係。子どもが子どもらしく居ることを受け入れてくれるから、親も「行儀よくしなさい、走り回ってはいけません」と叱りつける必要はありません。子どもも親も硬かった気持ちが解けていくようです。

人が孤立を感じるときというのは、頼る人や頼れる場が、誰も、何もないのだと思われられる場面なのだと思います。「学校に行きたくない」と言う子どもと、その裏にある事情を察しつつも「働きに行かなくてはいけない」という親。「平日は学校に行くのが当たり前だ」という支配的な社会の価値観。途方に暮れるような場面で、「おかえり」と

言いながら受け入れてくれる場所、モモはそういう場所になろうとしているようなのです。「公（官）」では対応しきれない、「民」ではビジネスとして成り立たない、その間で困っている人を助けるための「公民間」をめざしているのです。自分たちだけでやるのではなく、志を持った人をどんどん巻き込んでいこうとしているのです。

『みんなはなにかことがあると、「モモのところに行つてごらん!」と言うのです。』（ミヒヤエル・エンデ作「モモ」）コロナ禍が長く中、助けを必要とする人も、より自分らしく地域社会に関わりたと思う人も増えています。地域の中で暮らす普通の人が、誰かの役に立ちたいと志を持った時に、ドアをノックする場所。そして、いろいろな人とつながりながら想いを形にして、誰かにとっての「モモ」になれる場所。「社会的処方」（病に対して薬でなく地域の資源や

関係性を処方するという考え方）を地域の中で実現するための、大きな実験の場となっています。



水鉄砲遊びの休憩中の子と談笑する大人

表紙写真：夕暮れ前の天橋立（撮影 遠藤真森）

「レターズ アルパック」は、ホームページからご覧いただけます。

アルパック（株）地域計画建築研究所

Architects, Regional Planners & Associates, Kyoto
https://www.arpak.co.jp E-mail: info@arpak.co.jp

本社・京都事務所

〒600-8007 京都市下京区四条通高倉西入立売西町82 TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

大阪事務所

〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル10F TEL(06)6205-3600 FAX(06)6205-3601

名古屋事務所

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-27-2 日本生命笹島ビル17F TEL(052)462-1030 FAX(052)462-1061

東京事務所

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-15-7 ユニゾ内神田1丁目ビル4F TEL(03)5244-5132 FAX(03)6273-7715

九州事務所

〒810-0802 (株) よかネット：福岡市博多区中洲中島町3-8 福岡パールビル8F TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128

滋賀営業所

〒527-0012 東近江市八日市本町9-14 TEL(0748)36-2065 FAX(0748)36-2168

ホーチミン（ベトナム）No.187/7, Dien Bien Phu Street, Da Kao Ward, District 1, Ho Chi Minh City, Vietnam

この用紙は「びわ湖の森を元気にする」
kikitoペーパーを使用しています。